

9月も半ばを過ぎて、朝晩はずいぶん過ごしやすくなりましたが、今年は、台風が次々と日本列島を襲来しています。十分ご注意ください。
現在会員登録数 2,107 人さま。次号は 10 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 73

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「第 33 回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは 10 月 31 日（月）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第 30 号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『空はいまぼくらふたりを中心に』 村上しいこ/著 講談社 2016年8月

対象年齢：中学生以上

あらすじ：高校3年生の諏訪業平は、「うた部」の部長古畑清らと付き合っているが、短歌甲子園に向けてなかなか部がまとまらない。また、転校生のトキこと木曾時宗は、日記に密かに業平への思いをつづっていた。短歌甲子園とともに、業平の恋と家族の問題が描かれる。野間児童文芸賞を受賞した『うたうとは小さいのちひろいあげ』の続編。

T：『うたうとは小さいのちひろいあげ』の時も思いましたが、一つの作品の中に何層もの異質な「ことば」が重なっていくことによって、作品が立体的になっている点がおもしろかったです。

Y：今回は、地の文は「僕」という業平の視点で書かれ、そこにトキの日記が挿入されてきます。

T：会話文が多用され、清らの関西弁が入ってくる。それに加えて短歌が出てくる。定型で緊張感のある短歌の一行は、まるで、作品を串刺しにしているような印象を与えます。

Y：作品に出てくる短歌が微妙にへただったり、あ、この子だからこの歌かと思ったり、試合の勝ち負けになるほどと思ったり、短歌を楽しめるのもこの作品の魅力です。

T：前作と同様、今回もずいぶん現代的なテーマを扱っています。

Y：前作はいじめと不登校、本作は恋愛と家族問題。業平にあこがれるトキは、体は男性で心は女性、休日は女装をしています。また、業平の父は、有望な水泳選手だった業平が交通事故で選手生命を絶たれた時、心ない発言をして二人に深い溝が出来てしまいます。

T：トキのことがクラスで受け入れられていく様子がとても自然に描かれていて、あるべき姿を見たように思いました。

Y：業平と清らの恋愛はぎこちなさにリアリティがありますが、業平の友人の陸人との会話が本音かつ率直にお互いの悩みを話していて、いいなあと思えました。

T：そして、短歌甲子園で勝ち抜けるか？といういわゆる青春部活モノでもあります。

Y：前作の中心的人物であった綾美と桃子が「うた部」のメンバーとして脇を固めているのもよかったです。

T：小学校低学年から中学年ぐらいを対象にした作品が多かった村上しいこさん。これからはYA作品にも期待したいと思います。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第13回「蜘蛛となめくじと狸」

悪を覆い隠す偽善

〈みんな山ねこさまのおぼしめしじゃ。お前がお米を三升もって来たのも、わしがお前に説教するのもじゃ。山ねこさまはありがたいお方じゃ。兎はおそばに参って、大臣になられたげな。お前もものの命をとったことは、五百や千では利くまいに、早うざんげさっしやれ。でないと山ねこさまにえらい責苦にあわされますぞい。おお恐ろしや。なまねこ。なまねこ。〉

〈いよいよこんどは、地獄で毒もみをやるかな〉というセリフが衝撃的だった「毒もみのすきな署長さん」（前回メルマガ NO. 72 参照）。首をはねられる段になっても、自らの欲望（快樂）を覆い隠さず、むしろそれを貫き通した“覚悟”に〈みんな〉は感服したのです。

地獄行きをも覚悟した署長さんですが、本作「蜘蛛となめくじと狸」は、地獄行きのマラソンをした蜘蛛・なめくじ・狸の物語です。

蜘蛛は蚊やかげろうを、なめくじはかたつむりやとかげを、狸は兎や狼をそれぞれだまして食べ、少しずつ大きくなります。が、結局いずれもその悪行のために死んでしまいます。作品は3者の伝記という形式で語られ、結末は〈三人とも地獄行きのマラソン競争をしていたのです〉と締めくくられます。

「毒もみ～」の署長さんは結末、悪および自らの快樂を肯定し、包み隠さず披露し、その覚悟を示してみせました。一方、本作に登場する蜘蛛・なめくじ・狸は、自らの悪を覆い隠す偽善者・偽信仰者としてあらわれ、冒頭の引用にあるように言葉巧みに貧しい民衆をだましつつ、お互いを意識し、権力を志向して競争します。

両作とも、いわば悪の物語として描かれているわけですが、その語られ方はずいぶん異なります。賢治童話中、最も初期に書かれた本作は、競争が破滅へ至る道筋として用意され、当時賢治がいかに偽善や権力、そうした者たちの競争を嫌悪していたかを示しています。（ペ吉）

（本文の引用は、新潮文庫『新編 風の又三郎』によりました。）

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 73

その10 学校でのおはなし会（5）朝の10分間読書の場合

おはなし会の時間は学校によってさまざまですが、朝の10分間読書の時間におはなし会をして欲しいという学校も多くあります。

10分間では、おはなしや絵本が十分に楽しめないから断るというグループもありますが、10分でもおはなしや絵本に触れる機会を提供したいと積極的なグループも見られます。

まずは、断るグループがあるように、10分間では限界があるということを自分たちも先生にも知ってもらふ必要があると思います。絵本なら1冊か2冊、おはなしなら1つが関の山で、おはなし会をたっぷり楽しむことはできない時間であることは確かです。もし、同じ学校に何度も行く場合は、回数が減っても1回のおはなし会の時間を保証してもらふように交渉することも考えられます。

また、10分で行う場合は、短い時間でがんばって2冊の絵本を読むよりは、1冊をゆっくり読んで残りの時間で同じテーマの本を紹介するという方法も考えられます。子どもたちが読書の楽しさを知るということを念頭に置いて

活動することが大切です。

時々ボランティアの方から、児童または生徒が歩き回っておはなし会が成立しないという悩みを聞くことがあります。よく聞いてみると先生が職員会議などで教室におられないことがあるようです。子どもの安全を含めてボランティアグループには責任が持てないことですから、先生には教室にいていただく体制をお願いする必要があります。また、教室におられてもテストの丸付けなど他の用務をされる先生もおられます。先生が興味のない態度を示されると、子どもも集中できません。先生に参加していただくことも、おはなし会の成功に欠かせません。

*次号は「その10 学校でのおはなし会(6)」の予定です。

質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。(Y)

《4》行って来ました!

あべのハルカス美術館で9月10日～11月6日まで開催されている「大妖怪展 土偶から妖怪ウォッチまで」に行ってきました。

縄文時代の土偶、平安・鎌倉時代の地獄絵、中世の絵巻、江戸時代の浮世絵など、国宝・重要文化財を多数含む日本美術の作品128点が、「江戸の妖怪大行進」「中世にうごめく妖怪」「妖怪の源流 地獄・もののけ」「妖怪転生」の4章に分けて展示されています。

掛軸や絵巻物、屏風、版本などでいろいろな妖怪が紹介されていますが、同じモチーフが時代を超えて何度も出てくることに興味を覚えました。例えば、妖怪や鬼神、付喪神などが描かれた室町時代(16世紀)の「百鬼夜行絵巻」の真珠庵本が、江戸時代の「百鬼夜行絵巻」17世紀、19世紀)や「法具変妖之図」(18世紀)と比較されていました。また、地獄の様子が描かれた「六道絵」は、鎌倉時代(13世紀)から江戸時代(19世紀)のものまでいくつも展示されており、綱渡りや釜ゆでや鬼に責められている場面などに共通して、燃え盛る炎が描かれています。

縄文時代の「遮光器土偶」は、大きな目を細めたような表情や体に刻まれた模様などがユーモラスでした。土偶は縄文人の不安や畏れを表したもので、その形が後の妖怪に通ずるという解説がつけられていました。日本の妖怪が縄文時代の土偶から始まり、現代に転生したのが「妖怪ウォッチ」だという説がおもしろいと思いました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● さわって読む 絵本展 —手作り絵本から出版物まで—

日 時：10月7日(金)～10日(月・祝) 午前10時～午後4時

会 場：大阪市立中央図書館 5階中会議室 (西区北堀江)

参加費：無料 申込み：不要

共 催：てんやく絵本ふれあい文庫 / 大阪市立中央図書館

特別イベント

◇ワークショップ「てんやく絵本を作ってみよう」

日 時：10月8日（土）午前10時30分～11時30分

会 場：大阪市立中央図書館 5階小会議室

定 員：15人（事前申込先着順） 参加費：無料

◇フォーラム「さわって楽しむ絵本の魅力を探る」

パネラー：村山純子（エディトリアルデザイナー）

北川吉隆（小学館児童学習局図鑑編集室 編集長）

岩田美津子（てんやく絵本ふれあい文庫 代表）

日 時：10月8日（土）午後1時30分～3時30分

会 場：大阪市立中央図書館 5階大会議室

定 員：300人（事前申込不要、先着順） 参加費：無料

● 公開講座「学校図書館活用で育む 情報リテラシーと読書力」

講 師：堀川照代（青山学院女子短期大学現代教養学科 教授）

日 時：10月11日（火）午前10時～12時 講演会 午後1時～3時 交流会

会 場：大阪市立中央図書館 5階大会議室（西区北堀江）

参加費：無料 資料費：100円 申込み：不要

主 催：大阪府子ども文庫連絡会

共 催：大阪市立中央図書館

● 「森の素材を使って 絵本をつくろう！」

貝塚市にある自然いっぱいの少年自然の家の森を、絵本の物語を創造しながら探検し、森で見つけたものを使って自分だけの絵本づくりを楽しみます。

講 師：土居安子（大阪国際児童文学振興財団 総括専門員）

月 日：10月22日（土）～23日（日）1泊2日

対 象：幼稚園年長～中学生

定 員：10家族または子どもが30名

参加費：有料 申込み：必要（申込先着順）

主 催：大阪府立少年自然の家

協 力：大阪府立中央図書館 / 大阪国際児童文学振興財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『空はいまぼくらふたりを中心に』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.73プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は10月10日（月祝）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |



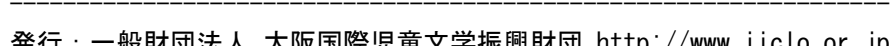
某先輩のブログから。7月、散歩用のスニーカーを買われた。なにせ暑いので、しばらく靴箱に入れて置く由。8月、暑くて外へ出る気が失せるので、これじゃいかんと通販で足踏み機を買われた…。

微笑ましい先生の暮らしぶりが目に浮かぶが、笑えない話だ。何しろ、週2日の出勤日以外は年中、自宅“蟄居”を決め込んでいる私は、さあどうする…。(A)



みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。



発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

